

平成26年3月期 中間決算概要

連結決算概要(経営成績)について

(単位:億円)

区分		H25/9 当中間期 実績	H24/9 前中間期 実績	増減	H26/3 通期見込 ²	H25/3 前期通期 実績	増減
営業収益	高速道路事業	3,811	3,094	717	8,376	6,723	1,653
	料金収入	3,058	2,963	94	6,001	5,853	148
	道路資産完成高	740	118	622	2,347	836	1,511
	その他	12	12	0	26	33	6
	関連事業	249	271	22	562	607	44
	SA・PA事業 ³	181	178	3	344	346	1
	その他の事業 ⁴	67	93	25	218	260	42
		4,061	3,366	694	8,938	7,330	1,608
営業費用	高速道路事業	3,738	2,998	740	8,413	6,704	1,709
	道路資産賃借料	2,122	2,037	85	4,218	4,092	126
	管理費用	874	843	31	1,817	1,776	41
	道路資産完成原価	740	118	622	2,377	836	1,541
	関連事業	219	245	26	525	565	39
	SA・PA事業 ³	145	140	5	298	284	13
	その他の事業 ⁴	73	105	31	227	280	52
		3,957	3,244	713	8,939	7,270	1,669
営業利益	高速道路事業	73	96	22	37	18	55
	関連事業	29	25	4	37	41	4
		103	122	18	0	60	60
経常利益		111	137	25	20	85	65
中間(当期)純利益		50	86	35	14	64	49

- 1 当社グループは、当社及び連結子会社27社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っております。
- 2 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。
- 3 「SA・PA事業」とは、高速道路のサービスエリア(SA)・パーキングエリア(PA)における飲食・物販及びその不動産を賃貸する等の事業をいいます。
- 4 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。

高速道路事業トピックス

- 当中間決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、我が国経済の緩やかな回復基調のもと、前期比 4.6%増加し 282.6 万台 / 日となりました。
 - 営業収益のうち、高速道路料金収入は、交通量の増加により、前期比 94 億円増の 3,058 億円となりました。
 - 一方、営業費用のうち独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比 85 億円増の 2,122 億円となりました。
 - また、管理費用は、道路施設点検費の増加や舗装補修工事の推進などにより、前期比 31 億円増の 874 億円となりました。
 - 以上のことなどから、当中間期における高速道路事業の営業利益は、前期比 22 億円減の 73 億円となりました。
 - 通期における高速道路事業の業績につきましては、料金収入は増加するものと予想しておりますが、道路資産賃借料の増加や、お客様の安全性の確保を図るため、道路施設点検や橋梁の劣化対策などの管理費用の増加に加え、利益剰余金活用事業¹を実施することなどから、営業利益は前期比 55 億円減の 37 億円の赤字を見込んでおります。
 - 当中間期における道路資産完成高²は、京都縦貫自動車道（沓掛^{くつかけ}インターチェンジ～
大山崎^{おおやまざき}ジャンクション）の開通などにより、前期比 622 億円増の 740 億円となりました。
 - 通期における道路資産完成高は、下半期に東九州自動車道（苅田北九州空港^{かんだきたきゅうしゅうくうこう}インター
チェンジ～行橋^{ゆくはし}インターチェンジ）などの開通を予定しており、前期比 1,511 億円増の 2,347 億円を見込んでおります。
- 1 利益剰余金活用事業とは、お客様の安全性を確保するための対策を早期に実施するため、高速道路事業に係る利益剰余金を活用して機構に帰属する道路資産を形成し、債務の引渡しを行わない事業のことをいいます。この事業の実施により、通期見込においては、道路資産完成原価を道路資産完成高より多く見込んでいます。
 - 2 道路建設にかかった経費と同額の債務を機構に引き渡すため、前述の利益剰余金活用事業を除き、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

関連事業トピックス

- 当中間期における関連事業につきましては、営業収益は、S A・P A事業においては概ね前期並でしたが、その他の事業においては受託事業が減収となったため、前期比 22 億円減の 249 億円となりました。また、営業利益は、子会社の増益などの影響により、前期比 4 億円増の 29 億円となりました。
- 通期における関連事業の業績は、店舗改良に伴う費用の増加などによる S A・P A事業の減益などにより、営業利益は前期比 4 億円減の 37 億円を見込んでおります。

決算値の季節的変動

- 高速道路の料金収入は、上半期が下半期に比べ気候が良いことや長期休暇が多いことなどから、上半期が多くなる傾向があります。
一方、管理費用は、冬期における交通を確保するための雪氷対策などにより、上半期よりも下半期が多くなる傾向があります。
このため、上半期と下半期の業績には下記のような季節的変動が生じ、結果として上半期と下半期の営業利益を比較した場合、上半期の値が大きくなる傾向にあります。

(単位: 億円)

区 分	上半期(実績) (A)	下半期(見込)	合計(見込) (B)	上半期比率 (A/B)
営業収益	4,061	4,877	8,938	45.4%
高速道路事業	3,811	4,564	8,376	45.5%
うち料金収入	3,058	2,943	6,001	51.0%
関連事業	249	313	562	44.3%
営業費用	3,957	4,981	8,939	44.3%
高速道路事業	3,738	4,675	8,413	44.4%
うち管理費用	874	942	1,817	48.1%
関連事業	219	305	525	41.8%
営業利益	103	103	0	-
高速道路事業	73	110	37	-
関連事業	29	7	37	80.8%

下半期及び合計の額は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

【参考】個別決算概要（経営成績）について

(単位:億円)

区 分		H25/9 当中間期 実績	H24/9 前中間期 実績	H26/3 通期見込 1	H25/3 前期通期 実績
営業収益	高速道路事業	3,802	3,084	8,358	6,702
	料金収入	3,058	2,963	6,003	5,854
	道路資産完成高	740	118	2,347	836
	その他	3	3	7	11
	関連事業	88	114	234	284
	SA・PA事業	52	51	105	103
	その他の事業	35	62	129	180
		3,891	3,199	8,593	6,986
営業費用	高速道路事業	3,729	2,991	8,401	6,696
	道路資産賃借料	2,122	2,037	4,218	4,092
	管理費用	865	836	1,805	1,767
	道路資産完成原価	740	118	2,377	836
	関連事業	78	103	228	266
	SA・PA事業	35	31	80	65
	その他の事業	43	71	148	201
		3,808	3,095	8,630	6,963
営業利益	高速道路事業	73	92	42	5
	関連事業	9	11	5	17
		83	103	37	23
経常利益		93	167	23	91
中間(当期)純利益		26	117	27	60

1 「通期見込」欄の業績予想は、将来見通し、計画の基となる前提、予測を含んで記載しており、実際の業績は今後、様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。